《巻頭言》

第16回日本禁煙学会学術総会を終えて

第16回日本禁煙学会学術総会大会長、日本禁煙学会理事 堺市立総合医療センター呼吸器疾患センター長

郷間 厳

完全オンラインでの開催

第16回日本禁煙学会学術総会は、2022年10月29日・30日の2日間に関西医科大学を配信会場として開催しました。新型コロナウイルス感染症の広がりにより2020年以降では、学術総会はハイブリッド開催でしたが、今回は初めて完全オンライン開催としました。ほとんどのコンテンツは、その後も12月27日まで視聴可能としました。現地で顔を合わせ気軽に意見交換するということはできなかったものの、今回が初めての取組みとしてオンラインでのWeb懇親会も開催しました。参加登録は、850人を超えました。オンデマンド配信を継続したことで、12月に入っても新規参加登録を得られていました。繰り返し視聴していただけた方もおられたと伺っております。

今回の学会のテーマについて

日本禁煙学会大阪支部を中心とした各実行委員の取組みと今後への目標を「受動喫煙ゼロ」「タバコ 依存なし」「タバコ規制枠組条約(FCTC)実現」の3つにまとめ、包含するテーマとして「命を守るための禁煙へ」としました。今回の総会の企画当初よりお力添えいただいた茂松茂人先生(前名誉大会長、日本医師会副会長)および高井康之先生(名誉大会長、大阪府医師会会長)のお二人のご挨拶により禁煙推進の必要性と健康推進が日本医師会の取組みと一致して重要であることを伺いました。そのご挨拶を受け、大会長講演で話しましたが、個人を大切にして禁煙支援することにより、また禁煙支援に取組む者が自分達へのケアも行い、その上で「全てのひとの命を守ること」が禁煙という取組みであるべきであるとの考えを発表しました。

禁煙推進の目的は、喫煙者の命を守ることも受動喫煙を介した害への対応も大切ですし、胎内での胎児の曝露の影響は、世代を超えて3世代にも及



第16回日本禁煙学会学術総会のホームページの top画像 (https://www.atalacia.com/jstc2022/)

びます。目の前の禁煙支援が大切ですが、喫煙行動にはその原因に本人では改善の難しい社会的要因がある場合があり、そのような状況が「健康格差」を生んでいることにも注意する必要があります。社会的要因への対応は、関係者で、地域で、専門職、医療・福祉の専門機関、支援のネットワーク、行政、政策立案者と協力関係を構築していかないといけません。FCTCは、その実行ガイドの中にそのような包括的な対策も含んでいるものですが、我が国の政府は、積極的にタバコ消費量を減らそうという気がないようです。しかし、FCTCは地球の持続可能な発展の重要な要素であり、やがては国としてタバコ産業は責任を持って終了させることが必要です。今回の学会では常に「ケア」の視点を意識して

おきたいと強調しました。お互いをケアしながら、 禁煙への取組みもケアしながら、喫煙者と非喫煙 者それぞれへのケアを行うことを、やはり協力しな がら、最終目標を一緒に目指したいと訴えました。

理事長講演

作田学理事長による講演では、新型コロナウイルスの感染およびワクチン効果への喫煙の影響、世界的な視点と我が国の問題の両方の視点から加熱式タバコ、メントール添加問題、SDGsとFCTCについての問題を明確にされました。

タバコを終わらせる方略:ニュージーランドの タバコフリー計画

海外招聘講演は、喫煙しない世代を作る法案を検討しているニュージーランドからオタゴ大学 Janet Hoek教授の御講演の動画に日本語訳の字幕を付けて配信しました。翻訳により、貴重な講演の内容を100%お伝えできたことは良かったと思っています。この内容への反響は大きく、多くの好評の反応をいただきました。そして、2022年12月13日に、ニュージーランド議会は、この新しい禁煙法案を可決するという素晴らしいタイミングとなりました。ニュージーランドでは2009年1月1日以降に生まれた人へのタバコの販売が禁止されました。今後、この法律を実現するためのニュージーランドの各種の取組みにも注目して学んでいく必要があると考えます。

禁煙の取組みは命のために

一般演題では、素晴らしい学術的な研究結果や 社会的な取組みが報告されました。新型コロナワ クチンの効果に喫煙が悪影響を及ぼす(永野達也先



学術総会終了後の実行委員集合写真、関西医科大学

生)、インプラント治療希望患者の喫煙継続の観察 (五十嵐寛子先生)、歯科衛生士学生・歯学部学生 への禁煙に対する意識調査(埴岡先生)や受動喫煙 の状況を歯肉毛細血管顕微鏡による観察研究(大矢 幸慧先生)、妊婦のパートナーへの禁煙支援の有効 性(林資子先生)、喫煙の検査データへの影響(渡 邊エスペランサ先生)などをはじめ、新型タバコの 最新研究、各世代、行政担当者、法律家、歯科領 域、母子保健領域、職域からの報告、薬剤師、管 理栄養士からの報告が行われました。

シンポジウムの新型タバコ最新研究では、COVID-19問題に加えて加熱式タバコが周産期・育児期の女性への悪影響を及ぼす調査研究(JACSIS妊産婦調査)、JASTIS研究の学術的成果の発表があり、禁煙学会で学術的取組みが強く追究される重要性が示されました。多職種の取組みやチームでの取組みの実践報告は、論文で学ぶよりもやはり発表者の生の声や工夫されたスライドやポスターから得られるものがあると考えました。また学会各部会・委員会のセッションは、オンデマンド配信が充実していたため、一般演題やシンポジウムとどちらかしか参加できないという現地開催のみの弱みが克服され、集合できないデメリットを補う良い面であったと実感しました。

充実した教育セッション

オンデマンドで聴取できるメリットが最大限に活 かせる教育的なセッションがいくつも用意できまし た。一部を紹介しますと、筑波大学原田隆之教授 には「禁煙支援における認知行動療法の活用」につ いて特別講演をフィリピンからいただきました。増 田大作先生および岸拓弥先生による循環器エキス パートセッションは、禁煙に造詣が深くかつ循環 器エキスパートならではの深みがあるセミナーでし た。動機づけ面接および論理情動行動療法の第一 人者のセミナーは、それぞれ寛容と連携の動機づ け面接学会から磯村毅先生、日本人生哲学感情心 理学会から加濃正人先生のセミナーが行われまし た。職場のタバコ対策と、企業からコミュニティ への波及までを実践されてきた鈴木隆宏先生のタ バコ対策セミナーも、あらたな視野が得られた方も 少なくなかったと考えます。また、特別にお願いし て実現した小児アレルギー学会から「受動喫煙防止 と小児アレルギー疾患 — 小児アレルギー疾患に関

表 第16回日本禁煙学会学術総会の各受賞演題一覧

	発表者 (代表者、所属)	発表演題
優秀演題賞	渡邊 エスペランサ (東京理科大学薬学部 臨床病態学)	喫煙が健康成人の各種検査データに与える影響
	永野達也(神戸大学医学部附属病院)	新型コロナワクチンの抗体価へ与える喫煙の影響の解析
	小林淳子(仙台青葉学院短期大学看護学部)	A市の妊娠期から育児期にある母親の喫煙・禁煙行動の 縦断的調査
	川島 治(医療法人社団清幸会 行田中央総合病院内科)	Child to Community ~ 市内全小学生対象喫煙防止教室・成人式即日調査 (行田モデル) による早期教育の効果と消滅可能性都市対策のヒント~
繁田正子賞	最優秀賞 川島孝則 (クラシエ製薬株式 漢方研究所)	禁煙補助薬としての漢方薬の有用性評価
	優秀賞 河田里奈(大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻)	更年期女性の尿中コチニン値による能動・受動喫煙の評価と生活習慣病有症リスクとの関連検討
	優秀賞 安達聖雛 (東京薬科大学薬学部 薬学実務 実習教育センター)	都道府県別の禁煙相談薬局割合と喫煙率との関係
草の根活動賞 (優秀賞)	折坂智恵子(中国労働衛生協会)	職場における喫煙対策の効果とこれからの課題
	西郡里美 (Tobacco-free ふくしま)	福島県のイエローグリーンキャンペーン活動について
	齊藤智恵理	近畿管区4府県警における敷地内全面禁煙の進め方及び 状態の評価:継続・後戻りの要因

するシステマティックレビューに基づく受動喫煙防止への提言—」の池田政憲先生(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科)の招待講演もすばらしい取組みのご報告でした。全てをご紹介できておりませんが、これらの其のひとつだけを視聴しただけでも満足いただける内容だったのではないかと思います。

各賞の選定を実施しました

繁田正子賞セッションとして非常に活発な議論 が進行され、発表者相互の学びもあったと考えま す。そのなかより優秀な演題を最優秀賞、優秀賞 として選出しました。

今回が第4回となる草の根活動賞は、コロナ禍の なかでも地域や職域での優れた活動に対して3題が 受賞されています。

また、優秀演題賞は、他の学会ではその学術総会・大会などで優秀演題の選出がありますが、今回は当学会としては初となりましたが、一般公募演題より優秀な発表を抄録だけでなくオンデマンド配信を活用して実行委員会で十分に議論して選定しました。

これらの賞については、禁煙会誌第17巻第4号の「受賞の報告」でも記載されていますが、各賞の一覧を表として再掲します(表)。

オンライン懇親会

オンラインビデオ会議サービスのZoomを用いて 計画し、担当実行委員と参加者の皆様で楽しく盛 り上げてくださいました。立案し運営していただ いた実行委員各位の工夫と尽力に頭が下がります。 コロナ禍の中で多くの参加者がZoomを用いた懇 親会であってもコミュニケーションが良好に得ら れ、計15の部屋を設定しましたが、どの部屋でも 気軽なやりとりができ、それぞれ大変楽しく盛り上 がっており大成功だったと考えております。

第16回禁煙学会のテーマの達成

学術総会のテーマとして人の命とケアからみた禁煙を確認したいと考えて開催しましたが、幸いにもその意味はあったものと考えております。横のつながりの必要性を改めて感じた2日間だったと思っております。開催後も多くのお言葉をいただき、実行委員会一同、この勢いを維持して大阪の禁煙推進を発展させたいと考えております。

おわりに

学術総会開催にあたり、学会役員のご指導ご支援に感謝申し上げます。また、関西医科大学の関係者の方々、実行委員ならびに実行委員の関係者の方々の多大なるお力添えに改めて深く御礼申し上げます。